



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和3年7月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数371人

言葉はその人のあらわれ

校長 清水 励

1学期最後の月となりました。今年の梅雨は、雲間から太陽が見える日も多く、「太陽が恋しい…」と、例年ほど雨空を見上げることが少ないようです。

先日は、授業参観・懇談会に、お忙しい中御来校いただき、ありがとうございました。保護者の皆様には「全てがうまくいっている学校」ではなく、学校の問題点や課題としている点なども含めて、共有すべきは共有し合いながら、子供たちにとって本校が「よりよい学びのある学校」となることを願っています。

P T A役員の方々や御来校された保護者の方々とお話することが多くあります。その際によく感じること、それは「なんで、この方と話していると、気持ちが穏やかで安心するのだろう…」ということです。これは、その人の人柄や内面の美しさによる部分が大きいと思いますが、やはりそのあらわれである「話し方」によるところが大きいようです。

以前、ある大学の先生（A先生）を加須駅まで車で迎えに行った時のこと。A先生は、30歳代・女性の准教授で国語教育を専門とされている先生でした。加須駅で無事にA先生と会うことができ、目的の学校へ行くまでの車中での会話。

清水 「A先生、東北線で久喜まで来て、東武線に乗り換えられたのですか？」

A先生「ああ、その方法でも来られたんですね、知らなかったです。私は、日比谷線から東武線直通で来ました。そうか、久喜駅乗り換えもあったんですねえ…。」

その後、15分程度の会話をして、目的の場所に到着。大した会話もしていなかったのですが、自分には、大学の先生と話す緊張感どころか、反対にとっても穏やかな心地よい気持ちが残りました。これは、A先生の人間性がにじみ出た「話し方」にあると、あとあと気づきました。例えば、上述した電車の乗り換え場所についての会話。もしも、A先生が「いいえちがいます。私は、日比谷線直通で来ました。」と言ったとして



も、会話は成り立つし、別に悪いことはありません。自分も普通に「ああ、そうなんですか。」で終わります。けれども、A先生は「なるほど。その来方もあったんですね。」と、相手の言ったことを否定せずに、しっかりと受け止めてから返事をされていました。また、車中でも「清水先生は小学校の先生ですか？」など、自分のことを話すよりも、まずは相手を受け入れようという態度で話されていました。

コロナ禍という、これまで経験したことのない長期的で世界的な脅威の中で生活していると、どうしても心に余裕がなくなり、他者への心配りが知らぬ間に失われて、「自分は正義だ」「自分が正しい」という思いから、不要に他者を攻撃してしまうこともあるようです。

この世界を生きる子供たちには、是非「自分を大切にすることと、他者を大切にすることは同じこと」ということを経験として学び、だれとでも気持ちよく関わり合って生きていける力を身に付けさせたいと思います。そのためにも、相手を大切に「言葉遣い・話し方」は、小学校時代に身に付けるべき大切な力です。まずは、場や相手に応じた「です・ます言葉」を、しっかりと使えるようにさせたいものです。

